

2011年 CAVOK ヨーロッパ航海(Lisbon~Corsica)

2011/5/22(日) 快晴 Vilamoura

今日は休養日。マリナーの左右は長い海水浴場でお店も沢山並んでいる。久しぶりにコインランドリーで洗濯する。

航海の疲れ、また泊り先では観光巡りで歩いているので疲れもたまってきたので良い休養となる。

サマータイムを採用しているせいか、朝は明るくなるのが7時前だが、夕方日没が8時頃なので、われわれみたいなアウトドア派には一日が有効に使えて助かる。

明日、柴崎さんが下船してリスボンにバスで向うのでバス停と時間を調べに行く。

悦子は少し疲れが出たようなので船でゆっくり読書をしながら休む。

柴崎、藤巻さんはホテルのプールに泳ぎに行く。

今日は柴崎さんのCAVOK Vでの最後の夜なので、ここアルガルヴェ地方の郷土料理カタプレーナを食べに行く。ポルトガル名物野菜スープと海老のカクテル、アサリのニンニク炒めをヴィノ・ベルデとドウロ産白ワインで頂く。

最後はシャングリアで乾杯する。

5月23日(月) 快晴 Vilamoura

柴崎さん、10時45分のバスでリスボンに出発なので3人でバス停迄見送りに行く。10時過ぎに時刻表にないリスボン行のバスが来たのでこのバスに乗る。12日から今日まで本当に楽しくお付き合いをして頂き、有難うございました。

お陰様でポルトガルの楽しい航海をすることができました。

ヴィラモウラは、特に歴史的な史跡はなく北ヨーロッパの人達の保養地という感じなので、我々もこれを甘受して今日も休むことにした。

藤巻さんは5つ星ホテルの探索に、私は近くのホテルのプールで体を冷やし、悦子は船のデッキの日陰で読書ということで午後を過ごした。

ポンツーンの近くに酒屋があったので、重たいミネラルウォーターとビールを大量に仕入れた。夜は、残りの肉をステーキにしてポテトとマッシュルームの付け合せとサラダで赤ワインを2本空ける。いまだ一日としてお酒を抜く日を作っていないので、そろそろ作らねばと思っている。

このマリナーは高いといわれていたが、1日24ユーロとラゴスよりも安い係留費だった。但し、5月なので、ハイシーズンは倍以上の係留費になっている。

5月24日(火) 快晴 東7~8m Vilamoura~Santo Antonio 0900/1730 50NM

ここは9時にマリナーオフィスがオープンなので、それに合せて出港。東寄りの風であったが片上り気味で7~8mの風の中を快調に走る。途中、若干風が強まったのでリーフするが、それでもスピードは7KTと快調であった。



1230にFarowo通過してからヘッドウィンドになったので、機走にする。海岸線はどこまでも砂浜が続いていた。

お昼に食べたメロンは甘く水分も多く美味しかった。前回、西瓜を食べたが固く甘くなかった。

1730にサン・アントニオのビジター・ポンツーンに着ける。グラデアナ川の河口にあるマリナーなので、干満による流れがあるので注意して入港したがマリナーのスタッフが舳れを取ってくれた。

いつものようにマリナー・オフィスで書類（登録証明、保険、パスポート）の点検、そして入口、トイレ、シャワーに入るための指紋登録を行う。指紋登録のセキュリティーは初めてだった。

ここはヴィラモウラと違い、静かなマリナーで落ち着く、町の中も人通りが少なく閑散としている。

3艇ほどビジター・ヨットが来ていたが、いずれも夫婦でいかにもヨットライフを楽しんでいるようで馴染む。

まだ明るいので町に繰出し、この町の雰囲気味わう。ここも大震災と津波に遭った街で、その後きれいに区画が整理されていた。今日は外食にして、美味しそうなレストランを探して入る。道に張り出した席を選ぶ。

ポルトガル最後というのと、ヴィラモウラでのカタプラーナがいまいちだったので、再度トライする。前菜の海老のガーリックグリル、シュリンプのカクテルもよかったが、エビ、貝、アンコウの入ったカタプラーナは最高の味だった。

ここでもワインを2本空け、ビール、エスプレッソを飲んで60ユーロ。ポルトガルを十二分に楽しんだ。このお店で会ったオランダ人夫婦がヨットを訪問してくる。CAVOK VIはオランダ、メーデンブリックからなので、親近感があった。

明後日のマザゴンまでクルーズを誘う。

5月25日（水） 晴れ San Antonio

グラデアナ川のリバークルーズに行こうと思っていたが、本日は就航しないとのことなので、セビーリャ観光に片道3時間かけてバスで行く。セビーリャに着いてからツアーバスに乗り市内を一周するが、日本語の案内があり助かる。



スタートはイスラム時代に建てられた黄金の塔から始まり、カルメンの舞台になった女工カルメンが衛兵ホセと知合った旧王立タバコ工場(現セビーリャ大学)、スペインを代表する闘牛場のひとつであるマエストロ闘牛場、スペイン広場、万博後の各国のパビリオン等々を見ながらツアーバスを降りた後、世界三大カテドラルの一つであるヒラルダの塔のあるカテドラルを観光する。



イスラム時代の大モスクを基礎として建てられそうだが、ゴシックとルネサンスの混合様式で、規模と荘厳で豪華な装飾には圧倒された。ムリーリョはじめ有名な宗教画を見ることができた。ヒラルダの塔は70mの高さがあり36廻りの回廊を上り、セビーリャの町を一望する。セビーリャは次の寄港地マザゴンからグアルダルキビール川の上流にあり、大航海時代に植民地貿易の富を集めたところである。コロンブスが大陸発見に出港したのもマザゴンの近くである。

県立美術館はじめまだまだ見たいところが沢山あったが、バスの時間も残り詰めた。本来はここで一泊したいところだ。

ポルトガル最後の夕飯は、地元で買ったアサリのガーリック炒めと鶏肉とジャガイモ、玉葱のシチュウを頂く。アサリが大変美味しかったので、次回見つけたら買うことにした。

5月26日(木) 曇のち晴 北北東4 ~ 5 m Santo Antonio ~ Mazagon 0950/1650 32NM

朝起きた時は小降りの雨が降っていたが、すぐ止んだので0950に出港する。

川向うはスペインなので、出港して暫らくしてから表敬用フラッグをスペインのフラッグに交換する。2回目のスペインのフラッグが揚がる。風は北から北東風の良い風で、静かな海面の中ジェネカーを揚げ快調に走る。アビーム前後の風がこのジェネカーに適しているようで4 ~ 5 mの風で6KT以上で走る。風の力をフルに使っての快走は素晴らしい。マザゴンはグアルダキビール川の河口で、上流に遡るとセビーリャに着く。大航海時代は帆船が行交っていたかと思う。16:50にアンダルシア地方Puerto Deportivo Mazagonに舫う。ポルトガルは、グリニッチ時間のロンドンと一緒にだが、ここスペインはポルトガルより東なのにグリニッチ時間より1時間遅くなる。従って、今まで20時くらい日没だったのが21時日没になる。1時間得した気になる。



藤巻さんはマザゴンの町の下調べに、私は洗濯、悦子は食事の準備をする。洗濯しているとフランス人のヨットマンが声を掛けてきて、これからどこに行くか？行ったことはあるのか訊いてくれ、初めて行くところだと説明したところ懇切丁寧に教えてくれた。次の寄港地はCadizよりRotaが良いとの郷に入れば郷に従えでRotaに明日の寄港地を変えることにした。そして彼の船に招かれ、ポルトのワインと、ロープを途中から引張れる道具をプレゼントしてくれた。お返しに3Lサイズの大相撲模様のTシャツと浮世絵のメモ用紙をプレゼントする。彼は70歳ぐらいで、ポルトガルに住んでいるようで日本にも仕事で来たことがあるそうだ。

日本で生活したことがあるヨーロッパの人達は、特に親しみをこめて親切にしてくれる。

夕食は干鰯をトマト味で煮込みとラクレット風チーズとポテトで頂く。干鰯のトマト味のスープが美味しかった。

(続く)